



おひさまだよい

令和7年10月号 十日町市発達支援センター

Tel.025-752-7270



ようやく秋の風を感じられるようになり、戸外での活動が気持ち良く感じられるようになりました。一日の中で寒暖差があり、衣服の調整や体調管理が難しい季節でもあります。栄養や睡眠を十分に取って、元気に過ごしましょう。

ぐんぐん小集団教室（年長児）は、11月に十日町小学校やふれあいの丘支援学校で授業体験をしてきます。就学に向けて少しずつ期待を高めていけるようにしていきたいと思います。

わくわく（年中児）教室は、友だちを意識するようになり、トランポリンや揺れ遊具と一緒に乗ったり、友だちの名前を覚えて呼んだりする姿が見られ、関わりの広がりを感じています。

にこにこ親子教室（年少児）、ぽかぽか親子教室（未満児）では、親子で触れ合い遊び等を楽しんでいます。同じ活動を繰り返し経験することで、こどもたちが活動に期待を持ち、集中して遊んだり、お家の人との関わりの中で楽しそうな発声がたくさん聞かれるようになってきました。

きらきら（個別）教室のお子さんは、指導員との信頼関係ができ、個々に合った活動に取り組んでいます。

おひさま研修「こどもの発達を育む土台作りについて」

9月5日に、十日町市内の保育施設の保育士や保育教諭を対象に、県立高田特別支援学校 上松武校長をお迎えして、おひさま研修を開催しました。

講演の中で、愛着（こどもが、特定の人（養育者）との間に結ぶ、情緒的な絆）形成は、こどもの発達を育む土台となるというお話がありました。

愛着形成に必要な3つの基地機能

機 能	説 明
安全基地機能	自分は親にとって大切な存在で、常に守られているという <u>安全の感覚</u>
安心基地機能	親との「つながり感」を基盤に育まれる、「この人（親）」といって落ち着く、ほっとする、楽しい、癒される」などの <u>ポジティブな感情、安心感</u>
探索基地機能	親と離れて活動した後に、 <u>自身の行動や経験を親に報告して共有したいという感覚</u>

基地機能が身につくためには・・・

- ① こどもを見守る
- ② こどもの気持ちを受け止める
- ③ こどもを褒めたり認めたり励ましたりする
- ④ こどもの苦手なことは、「〇〇したら大丈夫」ということを一緒に見つけていく

裏面につづく

愛着が形成されると⇒ 養育者との信頼関係ができる



「身の回りのことをしてみよう!」「他のこどもと遊んでみよう!」など様々なことにチャレンジする気持ちになる

こんな時こそ養育者の
かかわりが重要!!

「できた」「楽しかった」という
成功体験

「できなかった」「失敗した」

自信になる

「またやってみよう」と
いう気持ちになる(気持ち
や感情のコントロール)

・こどもの気持ちを受け止める
・「大丈夫、またやってみようよ」「次
はできるよ。ママ、見てるからね」
などと気持ちの立て直しを促す

- ★ もし、こどもが不適切な行動をした時は、感情を伝え、適切な行動を伝えていきましょう。
例) 「さっきは、早く使いたくてイライラした気持ちになったのかな。イライラした気持ちになった時は〇〇と言ってね。〇〇できるといいね。(こどもに合わせて伝える)」
- ★ また、望ましい行動やまわりが嬉しい行動をした時には、ポジティブな感情の意識化と共有化を図っていきましょう。
例) 「〇〇ができたんだね。ママ、嬉しいな。」
「相手が喜んでくれると〇〇ちゃんも嬉しい気持ちになるね」

※お子さんの対応に困ったときはご相談ください。お子さんに合った対応を一緒に考えていきましょう。

体調不良・感染症に罹患した際のお願い

これからの季節、感染症が流行していきますので、お子さんが次のいずれかに該当する場合は、おひさまの利用はできません。引き続き健康管理や安全対策にご理解とご協力をよろしくお願いします。

○本人が感染症に罹患している場合

お子さんが37.5度以上の発熱やかぜ症状(咳、鼻水)、嘔吐等の症状がある場合は利用できません。

お子さんが医師からの登園許可証が必要な感染症の場合、医師の許可が出るまで利用できません。

○感染症により、園が登園自粛期間中や希望保育の場合

在籍する園やクラスが登園自粛期間中は、お子さんがり患していなくても利用できません。

※来所時にお子さんの体調不良が見られた場合、利用をお断りすることがあります。教室利用時に嘔吐・下痢があった場合、おひさま職員がガウンを着て消毒液で処理するなど、感染症対応手順に沿った対応をしますので、ご了承ください。

※来所時の手洗いに協力いただきましてありがとうございます。上手な手洗いで感染症を予防し、これから寒くなる冬も元気に過ごせるといいですね。

